

Go for it!

「子ども達に求められる力」を育むために

～授業づくりで大切にしていること～

現代は科学技術が飛躍的に発展し、変化の激しい社会となっています。2015年にはオックスフォード大学等の研究で、「AIの導入によって、日本の労働人口の49%の仕事が、10年～20年以内になくなる」という衝撃的な事実が発表されました。実際に、数年前までは見かけることのなかった、スーパーやコンビニのセルフレジの導入等も、今や当たり前の光景になってきています。

AIの強みは、正確性とスピードです。一度作業の方法を覚えてしまえば、AIは正確に素早くその作業を続けていくことができます。また、人間とは違って、疲労による精度の低下や、勤務時間の規定もありません。こうしたパターン化することのできるような作業では、AIの強みが発揮されます。

では、子ども達は、AIに負けないために、AIと共存していくために、どんな力をつけていけばよいのでしょうか。それは、AIには無い、創造や協働、思考の力です。言われたことや決まったことを単純にこなすだけの作業では、AIに人間が勝つことは難しいと言わざるを得ません。しかし、新たに何かを生み出したり、他者と協力しながら作業を行ったりすること、そもそも何をすべきなのかを考えたりすることは、人間がAIに勝る部分です。

これらの社会的背景もあり、求められる授業も変わってきています。「授業」というと、全員が椅子に座って、黒板を向き、教師の説明を聞く姿が思い浮かぶと思います。もちろん、こういった場面も授業では必要ですが、ずっとこのスタイルでは、学習内容を暗記することや問題を素早く解く力しか身につけていきません。そして、暗記や素早く解く力はAIの強みと重なってしまいます。子ども達が想像力や協働する力、思考力を身に付けるには、「自分達で考え」、「他者と協働して」問題の解決に取り組むような授業が必要となります。そういった授業を目指して、日々の授業づくりに取り組んでいます。

今回は、道徳の授業での子ども達の姿を紹介します。「手品師」という物語で、誠実さについて考えました。「もし、自分だったら・・・」「どっちの考えもわかるけど・・・」といったつぶやきや、友達の考えを聞いて、「なるほど!」「うーん、でもやっぱり・・・」と考えが深まっていく姿を見ることができました。

「手品師」

大劇場の舞台に立つことを夢見て、苦しい生活の中、うでを磨き続ける手品師がいました。ある時、父が病に倒れ、母は働きに出て帰ってこないという少年に出会い、元気づけるために手品を披露し、次の日も手品を見せると約束をしました。しかし、その夜、友人から大劇場の舞台に立つチャンスが巡ってきたことを知らされます。大劇場に行けば夢は叶うが、少年との約束を守れない。少年との約束を守れば、自分の夢は叶わない。どちらを選択すればよいのでしょうか・・・



自分の立場（大劇場に行くか、少年との約束を守るか）を黒板に名札を貼って示します。その後、友達の立場を確認して、考えが似ている人や違う人と話をするすることで、考えを深めていきます。



友達の考えを聞いていくと、納得するところや、疑問に思うことが出てきて、話し合いが盛り上がってきます。いつの間にか人数も増えていきます。



友達の考えを聞いて、印象に残ったことを、自分のノートにメモしています。同じ立場でも、理由は人それぞれ違うことに気付きます。



学校教育目標「自ら気付き、考え、判断して行動する子どもの育成」